SANMEI Team TARO PLUSONE

TARO SEKIGUCHI RACE REPORT

JSB1000 11

三明電気工事 FUJITA Fujimoto Electric Industry KAWAFUL TECHNO

2022 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第２戦

2022 NGK スパークプラグ 鈴鹿 2&4 レース

三重県・鈴鹿サーキット（１周 =5.821km）

クラス：JSB1000 マシン：BMW M1000RR タイヤ：BRIDGESTONE

2022 年 4 月 23 日（土）天候：曇り　コース：ドライ

レース１ 予選：16 番手（タイム：2 分 09 秒 175）　決勝：10 位

2022 年 4 月 24 日（日）天候：雨　コース：ウエット

レース２ 予選：17 番手（タイム：2 分 09 秒 491）　決勝：13 位

観客動員数：16,000 人（2 日間合計）

YONE MOTORS https://www.yonemotors.jp　旅籠屋　Rider's Garage　府中不動産　Burgundy

バイク館 YellowHat　2りんかん　SOG　ARAI　FIXFIT　Printec　Team PLUS ONE　PLUS μ　WIND JAMMERS　功和軍団　Motorcycle CS2　WATER-TEC INC.

Arai HELMET　HYOD　alpinestars　BEEPRESSO　NOMATA　RCS　BRIDGESTONE　elf　ADVANTAGE　RK TAKASAGO CHAIN　NGK SPARK PLUGS　SUPER NOW　SHORAI

RACING MAX　ACTIVE　S&E PRECISION　P.O　九電工　MDF　999.9　TK LABO　BC　Moto United　TRIP

2022 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第２戦　2022 NGK スパークプラグ 鈴鹿 2&4 レース

ドライとウエットの難しいレースでポイントを獲得

開幕戦モビリティリゾートもてぎから3週間のインターバルで迎えた第2戦鈴鹿2&4レース。事前テストはないものの、開幕戦に続き木曜日の特別スポーツ走行からレースウイークが始まった。

鈴鹿で、このM1000RRを走らせるのは、もちろん初めて。まずは、開幕戦の状態のものと、もてぎでやりたかったセットにして2台を持ち込んだ。鈴鹿2&4レースは参加台数が多く、2組に分かれてセッションが行われ、関口はB組での走行となっていた。初日は、走行が3本あったが、1本目はドライだったものの、2本目から雨が降り始めウエットコンディションとなる。金曜日は晴れで2本ありマシンセットを進めるが、今ひとつの状態が続いていた。土曜には予選とレース1があるだけに、金曜までに、ある程度まとめておきたかったが、まだM1000RRを理解するには時間がかかると判断。バイクに合わせたライディングを、いろいろ試していく方向にスイッチし周回を重ねた。

公式予選は30分1セッションで行われ、2分09秒台と昨年よりタイムは出なかったが、一発タイムよりもアベレージを上げることを重視していた。

14周で争われたレース1。スタートは、まずまず決まりオープニングラップを14番手で終えると、2周目に1台をかわし13番手に浮上。前の集団に追いついていきチャンスを伺う。レース終盤には、5台の9位争いとなり、関口は1台、また1台とかわしポジションを上げる。最終ラップにもデグナー進入で1台をかわし10番手に浮上。もう1台かわしたいところだったが勝負できずに10位でチェッカーフラッグを受けた。

日曜日は一転して雨となる予報だった。雨の感触はいいものではなく、ポイントを獲ることも難しいことが予想された。レース1が終わった時点でドライでやろうとしていたことを、そのまま変更し、ウエットとなった日曜朝のウォームアップを走って見ると、今までよりは、いいフィーリングだったため、そのままレース2に臨むことにした。

レース2は16周の予定だったが、ウエット宣言が出たため2周減算の14周で争われた。スタートは、うまく決まったものの感触がつかめずオープニングラップは、17番手で終える。序盤は、なかなかペースを上げられなかったが、周りの転倒もあり、ポジションを上げていた。6周目にも他車の転倒があり、このアクシデントのためにセーフティカーが入る。この時点で14番手につけ、前との差も縮まっていたが、リスタート後も冷静にポジションをキープ。1台がマシントラブルで離脱したため、13位でゴール。2レースともポイント圏内でフィニッシュした。

■関口太郎コメント

「木曜日の走り出しの状況を考えれば、2レースとも完走してポイントを重ねることができたので、よかったと思います。M1000RRが何を求めているのか？　ホイールベースが長くなり、今までと違うライディングが必要なのでは？　いろいろ考えながらM1000RRのいいところを理解している真っ最中です。チームスタッフも本当によく動いてくれているので、いい方向に進んでいます。もっとM1000RRのポテンシャルを引き出して上位を目指していきますので、引き続き応援よろしくお願いいたします」

このリリースへのお問い合わせは、
下記メールアドレスまでお願いいたします。
E-mail : tarosekiguchi@gmail.com